

令和4年度学校関係者評価シート(年度末評価)

令和5年3月15日

校番	202 127	学校名	広島観智学園中学校・高等学校	校長氏名	福嶋 一彦	<input checked="" type="checkbox"/> 全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	------------	-----	----------------	------	-------	---	---

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<p>○目標、指標、計画等は、適切に設定されている。学校の特色と課題に即して、経営目標と評価指標が設定されている。</p> <p>○3年間の経営目標について、(1)国際バカロレア教育(IBプログラム)を、教育活動の主たるツールとして充実を図り、本校の教育目標の達成を目指す、(2)教科横断的で探究的な学習活動を展開することにより、主体的・対話的で深い学びを実現する、(3)寮生活における多種多様な人とのコミュニケーション活動等を通して、将来のリーダーとしての人格の陶冶に努めるとしている。いずれも国際バカロレア教育の基礎をなす事柄であり、さらにそれぞれの年度ごとの短期目標についても複雑とならずにシンプルに目標設定されているものとする。これらの目標計画に沿って、フレキシブルに多様なアイデア・達成方法を用いて取り組まれることを望む。</p> <p>○HiGAに求められている役割、重点事項が適切に設定されている。</p> <p>○成果も十分伺え、役割も明確にされており、適切である。</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<p>○計画の進捗状況の評価は、目標値と実績値との関係により、適切に行われている。</p> <p>○ルーブリックを用いた自己評価について、ルーブリックをどのように設定し、その結果・傾向をどのように評価するのかの分析が必要である。業務量の負担増にならない形で考察された方がよいと感じる。</p> <p>○適切に評価されている。目標値が厳しいこともあり、目標数値に達していない項目もあるものの、一般的に良好な進捗と考えられる。</p> <p>○実績より見て、計画の進捗状況も順調で適切である。</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<p>○目標達成に向けて、適切に取組が行われている。特に以下の取組は、特筆に値する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期経営目標(2)を達成するために、教科横断的な探究的な学習活動が展開されていること。 ・中でもMYPの学際的単元(IDU)では、概念で教科と教科を結び付けて指導できていること。 ・また、PP(パーソナルプロジェクト)をきめ細やかに指導し、世界平均点を上回ったこと。 ・中期経営目標(3)を達成するために、高等学校の寮則を生徒主導で作成させていること。 ・寮則づくりを通して、多様な文化的背景をもつ留学生と日本人生徒との相互対話・相互理解の場を設けていること。 <p>○MYPからDPへの円滑な接続に向け、高等学校1学年会を中心に生徒・保護者に対して丁寧なガイダンスを行う、MYP推進チームを構成する教科主任とコーディネーター間で情報連携をしながら、年間のカリキュラムを充実させる、海外連携プログラムなど年間を通して生徒が自身の可能性を広げるイベントに積極的に参加させるなど、目標達成に向けた積極的な取り組みがなされとされている。1期生のPP(パーソナルプロジェクト)の学年平均点は4.38点と世界平均を上回った点は素晴らしい。教職員・生徒が一体に取り組んでいることの賜物と捉えたい。</p> <p>○職員一同、リーダーの下、教員同士が連携を取りながら一丸となって取り組んでいる。保護者の立場としても情報提供をしていただきありがたい。ただ、理解し難いDPの制度や取組を、留学生の保護者にどの程度説明できているのかは気にかかる。</p> <p>○達成に向けた計画も明確で、実績・成果も出ており、取組も適切である。</p>

<p>評価結果の分析の適切さ</p>	<p>A</p>	<p>○高校開校とDP開始という本校ならではの特殊事情が、学校現場にどのような結果をもたらしているかを、適切に分析できている。特に以下の分析は、特筆に値する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IBプログラムのさらなる充実に向けて、生徒及び教職員の主体的な学びが欠かせないという分析。 ・各教科でプロジェクト型の学習を充実させ、スキルの習得や協働的な学び、セルフマネジメント能力の向上に一層つとめさせるべきという分析。 ・高等学校開校に伴い時間割が固定化されるため、研修方法を工夫する必要があるという分析。 <p>○全体を通して必要な分析がなされていると捉えている。</p> <p>○ワークライフバランスのうち、一月当たりの時間外勤務45時間以下の教職員の割合の自己評価がCだが、他校と違い、全寮制であることから厳しめの評価といえる。</p> <p>○1期生のPP（パーソナルプロジェクト）が世界平均を上回っているが、それに満足せず改善の余地があると評価されている点は、子どもを預ける親として大変頼もしく思う。</p> <p>○コロナ渦でも目標達成できており、評価結果の分析も適切である。</p>
<p>今後の改善方策の適切さ</p>	<p>A</p>	<p>○今後の改善方策は、適切に導出されている。特に以下の改善策は、特筆に値する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期経営目標(1)を達成するために、授業の担当者が変わっても業務が引き継げるように教材・資料を整理したり、教職員がお互いに学び合える環境を学校全体で作ろうとしたりしていること。 ・中期経営目標(3)を達成するために、生徒の自治的な活動を充実させようとしていること。 ・また、A4LC活動の充実や運動系の課外活動の充実を図ろうとしていること。 <p>・働き方改革に係る中期経営目標を達成するために、年度途中で柔軟に役割分担を追加・変更したり、スクラップアンドビルドの視点から業務内容を精査しようとしていたりしていること。</p> <p>○課題点を整理され、対応として示されている内容は改善方策として適当である。</p> <p>○改善方策それぞれは適切なものと思う一方で、業務負担が増えるようにも思われる内容がある。働き方改革とのバランスをとる難しさがあるのではないかと感じる。</p> <p>○改善課題も明確で、改善策も具体的に分析されており、適切であり、今後期待できる。</p>
<p>総合評価</p>	<p>A</p>	<p>○上の各所見をからみて、本校は学びの場としての機能がますます充実する傾向にある。以下の点のさらなる充実を期待したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IB校としての特色に鑑み、教職員の専門性をさらに高めること。修士、博士の学位取得を奨励し、教育の専門家としての地位を確立し、学内外にもそれをアピールできる体制を整えること。 ・公立校としての事情を踏まえ、異動してきた教員を継続的に支援する研修システムを構築すること。新しい学校文化・教育理念とこれまでの教職キャリアとの接続を図ることができるように、理論と実践、双方の視点からの研修を充実させること。 ・生徒の進学先を開拓するとともに、国内外にHiGAを認知していただく活動を展開すること。例えば、短期・中期の交換留学制度を導入し、HiGAの魅力を実験したアンバサダーを輩出すること。 ・これらのことを推進するために、業務内容の整理、統合を進めること。 <p>○全体各種行事も含めてしっかりと取り組んでいる。ただ、学外者が評価に必要な情報を入手するためには、以下のような準備が求められると思う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①評価をする必要のある点をあらかじめ整理する。 ②教職員、生徒、保護者それぞれに、ルーブリックも参考にしながら可能な限り面談の機会をとらえて感想を聞き取る。 ③評価書及びステークホルダーからの意見・感想をもとに、評価点・課題点をまとめる。 <p>○現校長の様々な取組とリーダーシップに敬意を表する。</p> <p>○DPに関してHiGAとして前例がない状態で、積極的に取り組んでいただき保護者としてありがたく思う。</p> <p>○学びの変革のモデルとなる学校を目指し、さまざまな取組がなされている。可能であるなら、PP（パーソナルプロジェクト）発表会を公開していただくと学校の取組が一層理解されると考える。</p> <p>○コロナ渦の下、教職員、生徒とも大変な環境の中、しっかりと結果も出ており、一層のスキルアップを期待している。</p>